

愛・地球博の最新情報はデジタルテレビで  
～ 在名地上デジタル放送局が博覧会協会と連携～

在名の放送事業者6者(東海テレビ放送、NHK名古屋放送局、中京テレビ放送、中部日本放送、メ～テレ、テレビ愛知<sup>1</sup>)は「愛・地球博」の最新情報を地上デジタル放送のデータ放送でお伝えすることになりました。

地上デジタル放送は中京広域圏で2003年12月から開始され、文字や画像で地域の詳しい情報をお送りすることができるデータ放送も特長の一つです。

在名放送事業者6者は(財)2005年日本国際博覧会協会(以下「博覧会協会」と連携し、愛・地球博の「催事・パビリオン情報」「会場交通情報」「入場者数情報」などを博覧会協会の情報公開サーバーから直接入手し、データ放送に変換してお伝えします。

情報は電子的にやりとりされるため、データ放送でより早く、より詳しくお伝えできます。

この新たな取り組みにあたって、在名放送事業者6者は、情報の電子的なやりとりを共同で簡便にするための「テレビ共通XML<sup>2</sup>(TV CML)」という仕組みを作り、データ放送のシステムが異なる各放送局でも、スムーズにデータ放送ができるようにしました。

データ放送に向けた、このような情報交換システムの共通化の試みは全国でも初めてで、各放送局では、さまざまな工夫を凝らして、愛・地球博に関心のある皆さんに、テレビを通じて、求める情報を的確に速やかに、お届けしたいと考えています。(放送内容は各局により異なります)

「テレビ共通XML」の仕組みは、地域の情報を伝える新しい方法として注目されており、会場周辺の地方自治体も、同じ共通XMLの仕組みを使って地域情報のやりとりができるように検討を進めています。

放送事業者と博覧会協会は2月末からテスト運用を進めて、博覧会の開幕と同時に愛・地球博データ放送を始める予定です。

---

<sup>1</sup> デジタル放送のチャンネル番号順

<sup>2</sup> 文書やデータの意味や構造を記述するためのマークアップ言語の一つ。マークアップ言語とは、「タグ」と呼ばれる特定の文字列で文章に構造を埋め込んでいく言語のことで、XMLは利用者が独自のタグを指定できることから、マークアップ言語を作成するためのメタ言語とも言われる。

在名地上デジタル放送事業者



【地上デジタル放送による愛・地球博データ放送の画面イメージ】